

研究結果

朝鮮語における最初の方言調査は小倉進平によって行われた。小倉は、1911年から朝鮮総督府に勤務しながら、朝鮮半島の最南端の済州島から最北端の咸鏡道までを200回以上廻り、各地の方言調査を実施した。さらに数多くの論文を発表し、多数の書籍も出版している。その調査は1903年から日本で行われた国語調査委員会による方言調査を参考にしたものと思われ、調査対象の選定、調査方法など類似する部分が多く見られる。

小倉のこうした精力的な活動は、日本の国語構築の一環として行われたものと推測されるが、実際には、小倉の方言調査を契機として、朝鮮に「標準語」なるものと、「方言」なるものの概念が生まれ、用語としての「方言」が普及する契機となった。結果的に、小倉は方言調査の必要性・重要性と方言調査の手法を朝鮮に伝えることになったのである。

これまでは、朝鮮における標準語および方言研究は、1936年「朝鮮語学会」による規範を、その始まりとするのが定説となっていた。同学会は1935年、機関誌である『한글(ハングル)』に「方言調査」という欄を設け、各地から方言資料を集める形で、朝鮮において最初の方言調査を行った。1942年5月まで、55回にわたって集められたこれらの方言資料は、その後、朝鮮語辞典の資料となり、標準語の規範として示されるのである。

この調査は、日本の方言調査のように国家機関の主導のもと、専門家の指導で実施された調査ではないものの、この調査の実施により、朝鮮語の標準語に対する意識が高まり、更には、これらの資料により朝鮮の方言学、方言地図、方言区画論の基盤が整ったことは注目に値する。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

「植民地朝鮮における標準語論」・邢鎮義・『日本文化学報』・2011年5月31日

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)